



社会貢献型インターンシップ
第15回「クラダシチャレンジ」in 沖縄県石垣市①・②

Agenda

#01

クラダシチャレンジとは

#02

7日間のスケジュール

#03

活動報告

#04

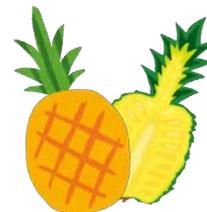
参加者の声

#05

事後報告会

#06

総括



#1. クラダシチャレンジとは

#1. 社会貢献型インターンシップ「クラダシチャレンジ」とは

社会貢献型インターンシップ「クラダシチャレンジ」とは

地方創生やフードロス問題に興味がある学生が、人手不足に悩む地方農家での農業支援を通し、地域課題やフードロスなどの社会課題について考える、社会貢献型インターンシップです。参加学生の旅費・交通費や現地での滞在費、食費等は、地域経済の活性化と社会発展に寄与するために設立した「クラダシ基金」から支援しています。

クラダシチャレンジ実施の目的

活動中：未収穫品から新たな収益を生み出し、経済面で地方・農家を支えます。さらに、学生が現地を訪れることで町に活気をもたらし、地域の魅力をSNS等で発信することでさらなる発展のパワーに繋がります。

活動後：学生が自治体や農家の方1人1人の温かみに触れ、地方・農業の魅力を体感することで、将来のキャリア選択を通して地域に貢献しようという意識が芽生えます。

#1. 社会貢献型インターンシップ「クラダシチャレンジ」とは クラダシ基金の概要

地域経済の活性化と社会発展に寄与するために
設立された支援金制度「クラダシ基金」



地方創生事業・フードバンク支援事業・教育事業・
食のサステナビリティ研究会の社会貢献活動に充てられます。

クラダシ基金とは

クラダシ自らが社会貢献活動を行うために
創設した基金で、ソーシャルグットマーケット
「Kuradashi」上における寄付先の1つです。

地域創生事業やフードバンク支援事業、食
育・SDGs教育事業などに活用しています。

▼参考URL

クラダシ基金について

: <https://www.kuradashi.jp/fund>

#1. クラダシチャレンジとは

「クラダシチャレンジ」による農家・自治体への効果

①未収穫作物の収穫による新たな収益の獲得

地方では、農業人口の高齢化・労働者人口の不足によって、未収穫作物の発生が増加しています。石垣市で生産されているパイナップルの収穫は、全て手作業で行われるため、時間と人手が必要です。収穫作業の必要な時期に学生を派遣することで、**未収穫による一次製品の食品ロスが解決される**と同時に、農家さんの新たな収益を獲得することができます。

②地方の関係人口の増加に貢献、若者を呼び地域振興に

地元の方から見たら当たり前風景でも、都心にいる学生から見ればとても価値のあるものに見え、**地元の商品や土地に誇りを持つことができます**。そして、SNS等を利用して地方の魅力を発信することで、**地方の関係人口の増加を図ることができます**。



③地元の特産品の購買促進に

石垣市には、パイナップルの他にも、美しい海や山など様々な見所があります。そのような素晴らしい魅力を、活動を通してPRすることで、**購買促進・観光客の増加**を図ることができます。



沖縄県石垣市クラダシチャレンジの概要

社会貢献型インターンシップ 第15回「クラダシチャレンジ」in 沖縄県石垣市

- 活動内容:
 - ①パイナップルの収穫・選果・梱包
 - ②意見交換会 (石垣市の政策、地域活性や有機農業について)
 - ③SNS等を利用した地方の魅力発信
 - ④ソーシャルグットマーケット「 Kuradashi」でのパイナップルの販売
- 開催期間:
 - ①2022年7月10日～7月17日
 - ②2022年7月17日～7月24日
- 参加人数:各日程4名 (計8名)
- 実施企業:株式会社クラダシ (クラダシ基金にて運営)

#1. クラダシチャレンジとは

沖縄県石垣市クラダシチャレンジの概要

【石垣市とは】



沖縄県で3番目に大きい石垣島と尖閣諸島からなる市で、人口は4万7千人(平成16年調べ)です。

国指定名勝地の川平湾、世界屈指のサンゴ礁が広がる白保など多くの観光資源を有しています。
また、パイナップルや泡盛が特産品となっています。



2022年1月に石垣市、ロート製薬、株式会社クラダシの3者が「石垣市におけるSDGsの推進に係る食品ロス削減および特産品のPRに向けた連携協定」を締結しました。

一次産業活性化に不可欠である、食品ロス削減に向けた取り組みを強化するとともに、地元の特産品や町の魅力の発信を通じて関係人口を拡大することを目指します。

▼連携協定について詳しくはこちら

<https://corp.kuradashi.jp/news/22-01-25-1/>

#クラダシチャレンジ in沖縄県石垣市

Kuradashi

#2. 7日間のスケジュール

7日間のスケジュール①(Day1-3)

<Day 1>

14:35 成田空港出発

18:05 石垣空港到着

20:00 夕食

21:00 ゲストハウスの方との交流

・自由時間

<Day 2>

5:00 朝食

5:30 コテージ出発

6:00 パイナップルの収穫

12:00 昼食

13:00 パイナップルの選果

ギフトボックスの組み立て

16:00 作業終了

18:00 歓迎会

19:00 活動の振り返り・自由時間

<Day 3>

5:00 朝食

5:30 コテージ出発

6:00 パイナップルの収穫

12:00 昼食

13:00 パイナップルの選果

ギフトボックスの組み立て

16:00 作業終了

18:00 夕食

19:00 活動の振り返り・自由時間

7日間のスケジュール② (Day4-5)

<Day 4>

- 5:00 朝食
- 5:30 コテージ出発
- 6:00 パイナップルの収穫
- 12:00 昼食
- 13:00 パイナップルの出荷作業
- 16:00 石垣市観光
- 18:00 夕食
- 19:00 活動の振り返り・自由時間

<Day 5>

- 5:00 朝食
- 5:30 コテージ出発
- 6:00 パイナップルの収穫
- 12:00 昼食
- 13:00 パイナップルの選果
- 16:00 夕食・自由時間
- 19:00 懇談会
- 21:00 活動の振り返り・自由時間



7日間のスケジュール③ (Day6-7)

<Day 6>

- 5:00 朝食
- 5:30 コテージ出発
- 6:00 パイナップルの収穫
- 12:00 昼食
- 13:00 パイナップルの選果
- 16:00 夕食・自由時間
- 19:00 懇談会
- 21:00 活動の振り返り・自由時間

<Day 7>

- 8:00 朝食
- 9:00 あしびなチェックアウト
- 10:00 石垣空港出発
- 15:00 成田空港到着



#3. 活動報告

▶パイナップルの収穫作業

やえやまファームの崎枝農場でパイナップルの収穫方法を学びました。崎枝農場では、農薬を使わない有機パイナップルが栽培されており、JAS認定されていました。鎌の使い方に苦戦し、慣れるまでに時間がかかりましたが、段々とコツを掴むことができました。大きな籠を背負い、収穫したパイナップルを持ち運ぶのは重労働でしたが、その分達成感を感じました。



▶パイナップルの選果作業

冠芽取りも初挑戦しました！
その他にも、重量を図り、タグをつけて、大きさ別に分ける作業や、鎌研ぎも体験しました。



▶幸福牧場見学

幸福牧場では、パイナップルをジュースにしたときに出る搾りかすや、泡盛の酒粕を発酵させ、餌として再利用していました。酒粕を牛の餌に混ぜると、メタンの排出量が削減できることに驚きました！
また、牛の糞尿を発酵させると上質な肥料となるそうです。農業と畜産の循環型産業を垣間見ることができました。



▶意見交換会

石垣市議会議員の長山家康さん・池原酒造の池原優さんと
地方創生についてディスカッションをし、島の内外の視点を共
有しました。
石垣市を盛り上げるためのアイデアを考える貴重な時間と
なりました！



▶観光 ①八重山博物館→②バナナ公園→③川平湾→④ミルミル本店

石垣市役所の方に観光ツアーをしていただきました。
行ってみたかった観光名所を訪れることができ、自然の美しさに圧倒しました！見るものすべてが青々としており、石垣の魅力を感じることができました。



#04. 参加者の声

人 人 人!!!

今回のインターンシップに関して、私は自分を変えたいという目的を持って参加しました。目標に向かって頑張っている人たち、社会を少しでも良くしようと頑張っている人たち、笑顔にあふれて毎日を一生懸命、そして全力で楽しく生きている人たち、たくさんの人々と出会い、感情が毎日変化して、刺激が強すぎる一週間でした。

毎晩いろんなの人とご飯を食べながら話をしたり、時には泣きながら相談したことも今となってはいい思い出です。(笑)

いつかお世話になった方々に、どのような形になるかわかりませんが、もらったものを、愛を返していけるようになりたいです。



【麗澤大学3年 長永佳汰】

収穫したのはパインのみにあらず

私はこの7日間を通して、一次産業やフードロスのことはもちろん、それ以外にも地方の実情や人との関わり、自然の尊さなど、参加する前に期待していたもの以上の収穫を得ることができました。

特に「ゆいまーる(沖縄の方言で「助け合い)」」を実感したゲストハウスあしびなが宿泊先だったことで、沖縄や石垣ならではの人と人との繋がりに恵まれ、さまざまな人と出会うことができました。その出会いの数だけ学びがあり、クラチャレ開催中だけでなく、終わってからも考えさせられることもありました。

睡眠不足との戦いはきつと感じることもありましたが、その分いろんな経験ができ、濃い1週間にすることができました。



【立教大学4年 不破明日香】

初めてだらけの1週間！

沖縄を訪れることも、農業を体験することも、パイナップル畑を見ることも、全て初めての体験で本当に刺激的な日々でした。

石垣市の暑さや日差しの強さは覚悟していたつもりでしたが、実際にその中で作業をするとなると、想像以上に大変でした。

大人数で作業をしていましたが、人手不足が深刻でこの作業を一人でやることもあると聞いた時は本当に驚きました。

生産の現場で食品ロスに触れられたこと、農業が抱える課題を目の当たりにしたこと、観光で訪れたときには見られない石垣市の側面を見ることができたことなど、とても貴重な二度とない経験ができました！



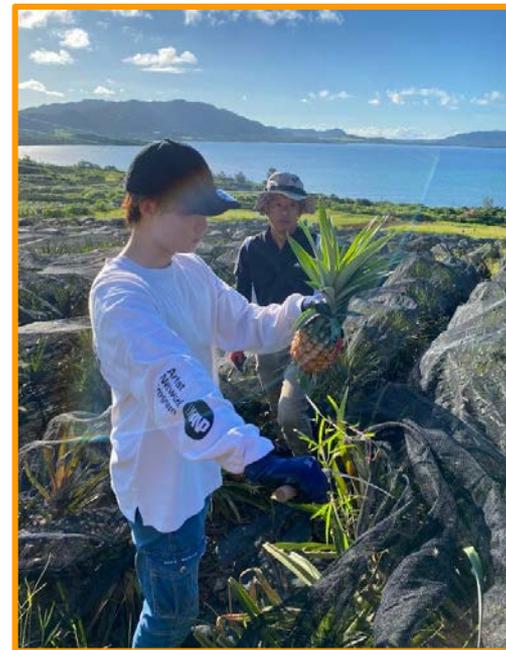
【青山学院大学4年 弓野妃香莉】

石垣、やえやまファームの現状と課題

今回のクラダシチャレンジは、自分の中で人生のターニングポイントになるほど素晴らしい時間を過ごすことができました。

たくさんの出会い、気づきを通して、新しく見えてきたものがさまざまありました。例えばやえやまファームで働かせていただく中で感じたことは、食品ロスの考え方の違いです。今回私達は、主に食品ロスの観点を学ぶために参加しましたが、実際に働いてみて私たちが想像していた食品ロスは出ていないことを学びました。例えば、農家さんはパイナップルの量が多い場合、わざと全て収穫せず、土の栄養としていたり、サイズの小さすぎるものや傷物はジュースにして、売れ残ったパイナップルは家畜の餌にしていました。

最後に課題としては、普通のパイナップルとの差別化を図るにはどうすれば良いか、そして知名度をもっと上げる方法を考える必要があると思いました。



【立命館大学3年 野中翔太】

フードロスの概念はどこから

私は、農家の方々が「フードロスの概念はない」と仰っていたことが印象的でした。フードロスの定義は市場に出たからの廃棄であり、実際、循環型産業や6次産業化が取り組まれているため、現場での無駄を感じる瞬間は少なかったです。しかし、市場に出る前の廃棄品も無くしたい！と強く思いました。人手不足による未収穫品があることや、市場に出たからの廃棄数を把握していない点が課題でした。今回私達が訪れた時期は閑散期であったため、人手不足を感じることはありませんでしたが、繁忙期は人手が足りず取り残しが多くあると聞きました。未経験者や観光客が手伝う訳にもいかないため、上手く人材を確保する方法を模索したり、過熟したものをジュースなどの加工品に回すことができればいいなと感じました。また同時に、エシカル消費が求められるべきだと感じました。需要と供給を満たしながら、もったいない精神を広められたら、フードロス削減を作る側だけでなく、消費者にも提起できるのではないかと考えました。



【東北学院大学4年 入駒万葉】

石垣市の魅力を体感

自然を満喫し、島の皆さんとたくさん触れ合うことで、地方の魅力や石垣市の素晴らしさを体感できました。パイナップル農家さんは皆さんとても優しく、自然の恵みがもたらすパイナップルもとても美味しく、5日間の活動はとても楽しかったです。短い期間ではありましたが、その分非常に濃密な時間を過ごせました。

また、今回のインターンシップがきっかけで地方創生の分野にも興味が沸きました。参加した仲間や行政の方々と石垣市について語る度に、私が知らなかった地方の一面に多く出会いました。特に、石垣市議会議員の長山さんとの対談、そしてやえやまファームの方々とのお話しの時間は非常に有意義な時間でした。

国産のパイナップルについて、また石垣市における観光業の実情について知らないことが多かったので、今回のクラチャレを通じて石垣市の魅力を全身で感じられました。

豊かな大自然、温厚な人柄、クラチャレで経験した「石垣市の魅力」。みなさんにも是非全身で体験してもらいたいです！



【関東学院大学3年 宮坂 悠一郎】

生を実感した一週間

朝から汗を流して行ったパイナップル収穫、ゲストハウスで出会うユニークで温かい方々、観光スポットで食べた美味しいご飯、言葉にできないほど綺麗な星々や海。すべてが満ち足りていて、「生きていて良かった！」と思える一週間でした。

農家さんと消費者ではフードロスの考え方に違いがあるということを知り、さらにフードロスへの関心が深まりました。

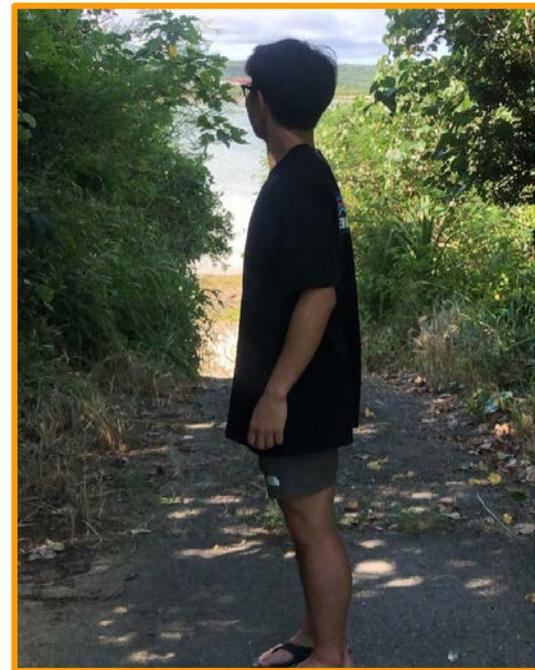
また、島だからこそ存在する「人の繋がり」に何度も心温まる瞬間がありました。地方に存在するこれらの「縁」の力や魅力を、地方創生の活動を通して伝えていきたいです。



【関西大学3年 山口澄怜】

人の繋がりが地域を創る

今回1週間もの間、石垣市に滞在し、さまざまな人と関係を持つことができました。受け入れ先の企業(クラダシ、ロート製薬、やえやまファーム)と農家の方、宿泊先のオーナー夫妻など様々な方にお世話になりましたが、彼らが繋げてくれた石垣の人たちは、本当に温かい人ばかりでした。”人の繋がり”、これは本当に石垣の地域力の源泉であると強く感じました。こうした気づきから、地域が活性化していく上では、その活動の根底には人が存在し、その組織内の人間関係の強さが、活動の影響力や充実度を高めていくのだと改めて理解することができました。人の繋がりに感謝し、今後も石垣との良い関係を築いていきたいと思えます。



【名古屋大学3年 永田勝悟】

#5. 事後報告会

第15回社会貢献型インターンシップ「クラダシチャレンジ」 in 沖縄県石垣市と合同で、参加者による事後報告会を行いました。

■日時: 2022年8月10日 16:00-18:00

■場所: クラダシオフィス・オンライン配信

■参加者: 「クラダシチャレンジ in 北海道仁木町」参加学生
「クラダシチャレンジ in 沖縄県石垣市」参加学生
仁木町の方々
Niki Hillsの方々
ロート製薬の方々
クラダシ社員

■目的: 参加した学生が、現地の方との交流・収穫支援の活動を通して見出した課題への解決策を提案する



～課題と政策立案～ 1班



石垣市の課題発見・解決策立案

石垣市の地域課題

人口の不安定性×観光業への依存

石垣市の現状

- ・歴史的な背景もあり、人口は石垣市出身の住民と移住者で構成されている(割合調査中)
- ・大学がないため、**大学進学(18歳)時の県外や本島への転出超過**
- ・その後の**30代前後の転入超過**→20代が抜ける
- ・この転入超過と転出超過でバランスを取っていたものの、**近年の若者のUターン率は減少傾向**にある(H1~20; 約76%、H7~26; 約64%)
- ・産業別年齢構成人口割合において、**農業の圧倒的高齢化**(他産業では約60%が50代未満なのに対して、農業では50代未満は30%にも満たない)

なぜその課題を選んだのか？

- ・石垣市での滞在中に、数多くの人と出会ったが、その多くが移住者だったことから、石垣市の産業はもはや移住者によって支えられている部分が大いのではないかと疑問に思った
- ・その特性故に、社会情勢によって左右されてしまい不安定になっていく可能性を踏まえ、それは行政を行う上で難点になると考えたから
- ・また、農業人口が減ってしまうことで、石垣市の農業が廃れてしまう危険性があると考えたから

石垣市の課題発見・解決策立案

現地で感じた印象・現地の声

- ・石垣には現実や社会のしがらみ、罪などから「逃げて」くる人が多いらしい
- ・クラチャレに関わっている人以外の出会う人も、とにかく日本各地からの移住者が多かった
- ・石垣市長；無理にUターンを促すのではなく、日本各地で活躍して欲しい、転出者分だけ転入してもらうことで、日本全国規模の地方創生が行えたらいい
- ・急激な変化によって移住増を喜べない地元住民
(<https://toyokeizai.net/articles/-/589751?page=3>)

目指すべき方向性

- ・「今よりさらに転入者を増やす」ではなく、今いる一定の転入者に対して「農業に興味を持たせる」方向
- もともとある石垣市のパイナップルなどの農産物を廃れさせることなく、自然増していくということ
- 無理に転入者やUターン就職を促さない石垣市の意向にも沿っていると考える



解決策立案

農業やゴミ漂着物問題など、「石垣のあまり知られていない部分」を観光してもらう ツアーを催し、海関係以外の石垣への介在価値、可能性を感じてもらうことで、海以外を目的とした新たな移住者の獲得を目指す

～課題と政策立案～ 2班



行政が主体的に関われる体制が整っていない

石垣市の現状

- ・行政主導の政策が不全
- ・ローカルであればあるほどつながりは強い傾向があるため、もっと地方自治の力で運営できるはず
- ・行政機関は、民間会社が頼れる存在であるべき
- ・行政が主体的に取り組んだ方が良い

なぜその課題を選んだのか？

- ・プログラム全体を考えると、行政の関わりが特に見えなかった
- ・コーディネートして下さった方々から見えた本音
- ・好きになった対象に石垣市行政は含まれなかった

石垣市の課題発見・解決策立案

現地で感じた印象・現地の声

- ・市の方々と市民のコミュニケーションが見受けられなかった
→市民同士の関わりが非常に強い印象があったために、そこへ行政の方が入り込めるかという少し違和感を感じる場面もあった
- ・結果的に行政の方々と大した関わりを持てなかった

目指すべき方向性

- ・石垣市のことは石垣市の行政が主体となって取り組むべき
- ・長い間、人が住み着けられるような街づくりのために、ゆくゆくは若い世代が離島しなくても良いような街づくりも視野に入れていく



解決策立案

行政主体による短期インターンプランの提言

#6. 総括

社名

株式会社クラダシ

設立

2014年7月

所在地

東京都品川区上大崎3丁目2-1 目黒センタービル 5F

代表者

代表取締役社長CEO 関藤 竜也

事業内容

ソーシャルグットマーケット「Kuradashi」の運営

URL

<https://www.kuradashi.jp/> (ショッピングサイト)

<https://corp.kuradashi.jp/> (会社HP)

株式会社クラダシは、石垣市以外の自治体でも支援を引き続き行なって参ります。

ご質問・ご相談等ありましたら、お気軽にお問い合わせください。